

バスに乗ろう

○目標となる資質・能力

規律性、道徳性

○指導のねらい

公共交通機関を利用する際に必要なルールを知る

○準備するもの

路線バスの動画、パソコン、プロジェクター、視覚提示物（ルール、手順等）、
手作りバス、バス整理券、バス停、小銭・財布（各生徒）

○教育課程、実施時期

生活単元学習（校外学習前）

○留意点など

生徒の実態によって展開部に時間を要する場合は、2時間扱いで実施してもよい

展開例

	学習活動	指導上の留意点
導入 5分	1 本時の活動を知る	・校外学習（遠足）を目前にし、生徒自身が気を付けるべき点について学習するということを知らせる
	バスに乗ろう	
展開 35分 または 必要に応じて	2 実際のバス乗車の様子を動画で見る 3 手順とマナー（ルール）を確認する <確認ポイント> ・順番を守って乗車する ・整理券をとる ・静かに過ごす ・座席から立ち歩かない ・降車時には料金を支払う ・運転士にありがとうと言う ・降車後、安全に待つ 4 バスで校内巡りをしよう ・一連の手順を実施する ・各バス停で乗降車する ・バス内のルールを守る	・実際のバス乗車の様子を見せ、マナーの良い人と悪い人に気付かせる ・乗車から降車までの一連の動きを順に確認し、発表させる ・マナーの悪い人について、どうすれば良かったかを考えさせる ・マナーの良い人を思い出させ、人に迷惑をかけないようにバスの乗降ができるように、要所で考えさせながら実施する
まとめ 10分	5 気付いたことを発表する 6 まとめ	・活動で感じたことや、危険を感じたことをそのまま発表するように促す ・遠足で実際に行動できるように伝える

◎ 中学部（知的障害、肢体不自由）での実施

○ 「バスに乗ろう」について

高等部卒業後、公共交通機関を利用し、自力での通勤が必要となったり、在学中でも余暇活動等で公共交通機関を利用したりする場合がある。利用の際の手順を知るだけでなく、マナーやルールを知り、人に迷惑をかけないように行動することが必要となる。

そこで、中学部の段階では「良い・悪い」の判断ができ、自分が実際に良い行動ができるように意識することを目標に活動を行うようにする。発達段階に応じて、その場面に応じた臨機応変の対応ができるように学習していく。

○ 路線バス乗降車の様子の動画について

生徒が興味を持って動画に集中できるように、学級や学年の教員が実際に近隣の路線バスでの乗降車の様子を撮影したものが望ましい。バス会社に依頼が困難な場合は、アニメ等のVTRを活用するなど工夫する。また、動画が難しい場合は、実際にその場で教員が実演することでもよい。

○ 校内巡りについて

可能な範囲で学部内または他学部の了承を得、校内を巡る。実際の場面を想定して、①バス内では大きな声で騒いだりせず、静かに過ごすこと、②降車予定のバス停のアナウンスが聞こえたら「降ります」ボタンを押すこと、③バスが止まってから席を立つこと、④通路が狭いので、他のお客さんと譲り合って降りること、⑤降車後は安全な場所で待つこと、などをシミュレーションする。

○ 「公共の場」を意識させる

公共の場では、自分以外の人がたくさん存在し、それぞれの行動をしていることに気付くようにする。他人を意識して自分の行動をコントロールすることが大切であることを伝える。また、自分が何気なくしていることが他人に迷惑をかけてしまうことがある。そんなとき、素直に謝ることができる、自分の感情をコントロールすることも大切だと教える必要がある。